

らい 来ぶらり

図書館へ気軽にぶらりと来館していただきたいという思いで命名しました。

図書館を英語で「Library(ライブラリー)」といいます。

No. 111 12月号

2014年12月1日 発行
たつの市立図書館

龍野図書館 TEL(0791)62-0469
新宮図書館 TEL(0791)75-3332
揖保川図書館 TEL(0791)72-7666
御津図書館 TEL(079)322-1007

<http://www.city.tatsuno.lg.jp/library/index.html>



携帯専用サイトへは、
左のQRコードから
(<https://www.lib015.nexs-service.jp/tatsuno-city/mobile/index.do>)

読書と私 No.103

「絵本との出会い」

龍野町 横尾 眞智子

龍野図書館とのお付き合いは、もう30年以上前からになるのでしょうか？小さな子どもを連れてよく出かけたものです。その頃の司書の方が私達をよく覚えて下さった事を、数年前に人伝に聞いた事があり、とても嬉しかったのを覚えています。また、その頃の館長さんにも、子どもにどんな絵本を読んだらいいのか親切に教えて頂いて本当に感謝しています。おかげで、子どもは絵本が大好きになり、私が図書館に連れて行かなくても、お友達と行く様になりました。子どもの成長とともに私の足が図書館から少しずつ遠のいていった頃、小学校での絵本の読み聞かせグループ“おはなしホット”へのお誘いを頂きました。絵本を通して体験した子どもとの楽しい時間を思い出して、是非にと参加させて頂く事にしました。あれから十数年、活動は幼稚園にも広がり、他からお声が掛かれれば出張読み聞かせに行ったりもしました。そのうち会員も4人での出発から段々増えて、ますます楽しいグループになっています。これもいろいろ教えて下さる先輩方や、優しい仲間の御蔭と心から感謝しています。また拙い私の読み聞かせを、目を輝かせて聞いてくれる子ども達にも感謝！

それから、一番に忘れてならないのは、図書館の司書の方々。読み聞かせに読む本をいつも迷って困っている私に、親身になって一緒に探して下さったり、的確にアドバイスして下さる強い味方です。先日、幼稚園で読んだ『ちいさなねこ』や『かばくん』は、20数年前に毎月書店から取り寄せていた“こどものとも”の中の1冊で、私の子ども達も大好きな絵本。今の子ども達も大好きな様で、良い絵本は変わらないものなんですね。孫の様な子ども達に、これからもずっと絵本を読み続けたいと思います。そしてもう1つの夢は、まだ見ぬ本物の孫との図書館通いでしょうか。子ども達に読んで聞かせた絵本を、孫にも読んで聞かせられれば最高でしょう。楽しみです！

『ちいさなねこ』(石井 桃子 作 福音館書店)
『かばくん』(岸田 衿子 作 福音館書店)

※『読書と私』は図書館の利用者に執筆していただいています。

『フォトジャーナリストが見た世界 地を這うのが仕事』 川畑 嘉文 著 新評論



著者がニューヨークで24歳の時に遭遇した9・11。夜半、膨大な灰の中を歩いてたどり着いたワールドトレーディングセンター跡は残骸が丘のように積み重なって、ただただ混沌に身を置いているという感覚で、人生を変えるほどの衝撃だったという。本書は、その後写真修行をした著者の、ルポルタージュである。

アフガン地雷除去訓練センターの、地雷や不発弾の爆破処理訓練生は、武器に詳しい従軍経験者が多く、就業機会のない兵士にとっては貴重な仕事だという。カンボジアの取材では、生死の境を歩む仕事に携わる一方で、自宅でお気に入りの洋服で写る20才の女性除去員の写真も添えられる。

巨大地震が襲ったハイチではNGOの支援物資の配布に同行し、「日本の人々に感謝します」

と口々に言われ、身をもって人道支援のやりがいを経験する。しかし、東北の震災直後には、「写真なんか撮るな。俺たちにも人権があるんだ」とどなられ、取材のあり方を考えさせられた。

では、なぜ著者は危険で過酷な土地に行くのか。それは、「世界には伝えなければならないことがある」という。しかし自分はキング・オブ・チキン（臆病者の王様）で、飛行機の轟音で動悸がし、睡眠中の少しの揺れでも目が覚める。だからこそ水泳や筋トレで体を鍛え、笑われるほど薬を持ち歩き、訪問先を調べ、精一杯の準備をして取材に臨むのだと述べる。

こうして記された本書は、報道された現実、現地の人々との交流によって掬い上げられた生活のリアリティが付加されている。また、フォトジャーナリストという仕事を通して感じ、考える等身大の若者の成長が印象的である。

(揖保川図書館 大西)

トピックス サンタクロースってほんとうにいるの!?



もうすぐクリスマス! 今月はサンタクロースについての本やイベントをご紹介します。

『サンタクロースってほんとうにいるの?』
てるおか いつこ 作 福音館書店
ねえ、サンタクロースってほんとうにいるの?
えんとつがなくてもくるの?
どうしてぼくのほしいものがわかるの?
こどもたちのしつもんにおとうさんとおかあさんがこたえます。

『クリスマスはサンタクロースのひげだらけ』
ロジャー・デュボアザン 作 佐学社
サンタはおこっていました。「クリスマスがくると、わしのまねをして、わしみたいなあかいふくをきて、にせのひげとかつらをつけたやつらがそろそろでてくるんだからな。このほんもののひげにちかかって、にせのサンタをなくしてやるぞ!」

『サンタクロースっているんでしょうか?』
ニューヨーク・サン新聞社 作 偕成社
「おしえてください。サンタクロースって、ほんとうにいるんでしょうか?」
8歳の少女が出した質問の手紙に、ニューヨークの新聞社が社説で返事をしました。



『ぐりとぐらのおきやくさま』
なかがわりえ 作 福音館書店
もりでゆきがっせんをしていたぐりとぐらは、ゆきのうえに、おきなながぐつをみつめました。
そのあとをつけていくと...



新宮図書館 クリスマス・コンサート ベルトーンチャイム
クリスマスソングやジブリの映画音楽など、小さいお子さんから大人の方まで、おなじみの曲がたくさんのでプログラムです。美しい調べをお楽しみ下さい。
○とき 12月14日(日)10時30分~11時30分 ○出演 アリス
○ところ 新宮図書館 ○定員 先着50人・要申込(電話可)



おすすめする子どもの本・103

『ハリーのセーター』

ジーン・ジオン ぶん わたなべ しげお やく 福音館書店

ハリーは黒いぶちのある白い犬です。お誕生日に、おばあちゃんからセーターをもらいました。でもハリーは、このセーターのバラ模様が好きではありません。何度もセーターを捨てようとするのですが、その度に親切な人が拾って届けてくれます。がっかりしていたハリーは、セーターから毛糸が1本出ていることに気がつきました。ひっぱってみると、どんどん毛糸がのびていきます。その時、鳥がやってきて、毛糸の端をくわえて空へ飛んで行きました。毛糸はどんどんひっぱられ、あっというまにセーターはほどけてなくなってしまいました。

気分が良くなったハリーは、おばあちゃんたちとお散歩に出かけました。すると、公園で鳥の巣を見つけました。それは見覚えのあるバラ模様の毛糸でできていました。ハリーがセーターを鳥にあげたのだ、とお

ばあちゃんたちはよろこびました。

クリスマスに、またセーターが届きました。今度は黒いぶちのある白いセーターだったので、ハリーはとても気に入りました。

丁寧な描写と、勢いのあるくっきりとした挿絵から、ハリーの豊かな感情が伝わってきます。読んであげるなら4歳から。

(龍野図書館 品川)

『農場の少年』 ローラ・インガルス・ワイルダー 作 福音館書店

もうすぐ9歳になるアルマンズは、広い農場を持つ父さん、母さんと、兄さん、ふたりの姉さんと暮らしています。学校から帰ると動物たちの世話をするのが日課です。馬が好きなアルマンズは早く馬を馴らしたいと思っていますが、若い馬を馴らすのには辛抱強さと慎重さが必要で、父さんは9歳のアルマンズにはまだ無理だと、馬の仕切りに入ることを許してくれません。アルマンズが9歳の誕生日にもらったのは、牛の調教用の道具でした。アルマンズはそれを使って、子牛に「ギタツプ!」「ウォー!」と掛け声をかけ、進め、止まれを教え始めました。この子牛をちゃんと扱うことがで

きれば、来年は子馬の世話をさせてもらえるかもしれないとアルマンズは張り切ります。

アルマンズは春の畑づくり、種まき、羊の毛の刈込み、夏の鋤入れ、秋の取り入れと忙しい農場の仕事を手伝いながら、いつか父さんのような立派な農夫になりたいと思うのでした。

19世紀後半アメリカの、食べ物、着るもの、靴、ローソクなど、生活の多くを自分たちで賄う、不便にも写る農場の暮らしは新鮮で、読み手の好奇心を満たしてくれるでしょう。

アルマンズが思いがけず子馬を手に入れることになる結末は、希望に満ちており、深い満足感を残します。9歳ぐらいから。

(新宮図書館 勝谷)



各館の行事予定

※詳細は各館へお問い合わせください。

館名	行事	対象(上段) ・ 時間(下段)	12月の予定
龍野図書館 TEL(0791) 62-0469	●えほんのじかん	1～3歳児、保護者 ----- 第2・第3土曜日(11時～11時20分)	13日・20日 『もりのてぶくろ』他
	子どもの本を読む会	一般 ※会場が変更になっています ----- 第2木曜日(10時～11時30分)	11日 詩を楽しむ
	読書会	一般 ----- 第2金曜日(10時～11時30分)	12日 『おひとりさまの愉しみ』 木岡 悦子 著
新宮図書館 TEL(0791) 75-3332	●えほんのじかん	2～4歳児、保護者 ----- 第2・4月曜日(11時～11時20分)	8日・22日 『クリスマスのふしぎなほこ』他
	■おはなしのじかんとミニおりがみ教室	5歳児～ ----- 土曜日(10時15分～11時10分)	6日・13日・20日・27日 「ありこのおつかい」・クリスマスのおりがみ
揖保川図書館 TEL(0791) 72-7666	●えほんのじかん	3～5歳児、保護者 ----- 第2・第3土曜日(10時30分～10時50分)	13日・20日 『ハリーのセーター』他
	■おはなしのじかん	小学生以上 ----- 第2・第3土曜日(11時～11時30分)	13日・20日 「おいしいおかゆ」他
	読書会	一般 ----- 第3金曜日(10時～12時)	19日 『恋しぐれ』 葉室 麟 著
御津図書館 TEL(079) 322-1007	●えほんのじかん	0歳児～、保護者 ----- 第2・第3日曜日(11時～11時20分)	14日・21日 『せきたんやのくまさん』他
	読書会	一般 ----- 第2火曜日(13時30分～15時30分)	9日 『ケータイを持ったサル』 正高 信男 著
	古文書を読む会	一般 ----- 第2土曜日(13時30分～15時30分)	今月はお休みです